

調査研究部会「教職員のICTに関する実態調査と活用」について

1 はじめに

本校のICTの活用は、授業や校務整理など多岐にわたり便利である。だが、授業に関してタブレットを使用したほうが効率がよい面と特に使用しなくてもよい内容もあり、適切な活用ができているのかどうか不安な面も多い。どんな場面でどんな使い方をすればよいのかに未だ不十分な面が多く感じられる。調査研究部では、教職員に向けて実態調査を行い成果と課題について考察した。

〔調査内容〕学習などにおけるICT活用に関する教職員の意識調査について

〔実施方法〕Google formsを利用したオンライン調査

〔調査期日〕 ・R6年5月(1回目) ・R6年9月(2回目)

2 質問調査の実践

① 調査の目標

調査研究部の目標である「教職員のICTに関する実態調査と活用」にせまるために、これまで教職員に向けて2回のアンケート調査を実施した。職員には回答状況を提示し今後の教育活動の改善と充実につなげることを目的とした。

② 調査内容

〔1回目調査(5月に実施)〕調査内容については主に次の3つである。

・生徒に関することとして「基礎基本」「主体性」「協働的な学び」の3つの事項を中心に、ICTを活用して効果があったことについて。

・教職員に関することとして「ICTを授業で活用することについて不安を感じるか」「活用の課題点」「活用するうえで大切なこと」について。

・ICTサポーターに関することとして「ICTサポーターに支援して欲しいこと」「教科領域で取り組んでみたいこと」について。

〔2回目調査(9月に実施)〕調査内容については主に次の2つである。

・主に「教職員自身」について

・「1回目のアンケートを結果受けて工夫したこと」や「効果があったと実感できることなど」について。

③ 調査結果からの考察

ICTを活用することで、興味関心が高い内容を調べる際の情報収集がしやすくなる。協働的な学びの視点から授業中の意見の共有がしやすく、そのため生徒の意欲向上にもつながる。また、ICTの機能性から音声や画像を用いて、具体的に資料の提示ができ便利である。しかしこれらの利点が挙げられる反面、授業で活用することに対して不安を感じている教職員も多く、スキル不足が今後の課題でもある。ICTサポーターに支援を望む内容は、授業内容の相談やミライシードの使い方など基本的なことが挙げられるが、連携することに十分な時間を確保することが課題である。

3 成果と課題

質問事項から次の内容についてまとめ今後の成果と今後の課題とした。

質問1 「授業などでICTを活用してみて、工夫したことを具体的に教えてください」

ミライシード・クラスルーム

- ・NHK for school とジャムボードの併用で視覚的理解を心がけた。
- ・保健委員の連絡でクラスルームを使用している。

表現活動

- ・2年生の美術の授業で、描画アプリとカメラ機能を用いアイデアスケッチすること。
- ・書くことが苦手でも発表資料が作りやすくなる。

意見の共有

- ・実験結果や考察を各班ごとにまとめる際に、オクリンクを使用した。
- ・振り返りシートなどをタブレットなどで行う。道徳など意見の共有をする場面でタブレットを使う等。
- ・匿名の設定にして意見を出しやすくした。

デジタル教科書

- ・デジタル教科書を利用して解説をスムーズにすることができた。
- ・図形の問題で動画(デジタル教科書)を活用する。デジタル教科書の問題を電子黒板に表示して考えを書き込む(板書スペースが確保できる)
- ・デジタル教科書を使って、実験の手順を動画で学習した。(口頭より時間が短縮でき、理解しやすいと感じた。)

映像・スライド

- ・器械運動、マットの授業でお互いの演技を撮影して、アドバイスする。さらに再撮影をして総合評を実施した。
- ・動画を使える時にできるだけ使う。
- ・本時の流れをスライド1枚にして、学習内容・利用する既習事項の確認を行う。

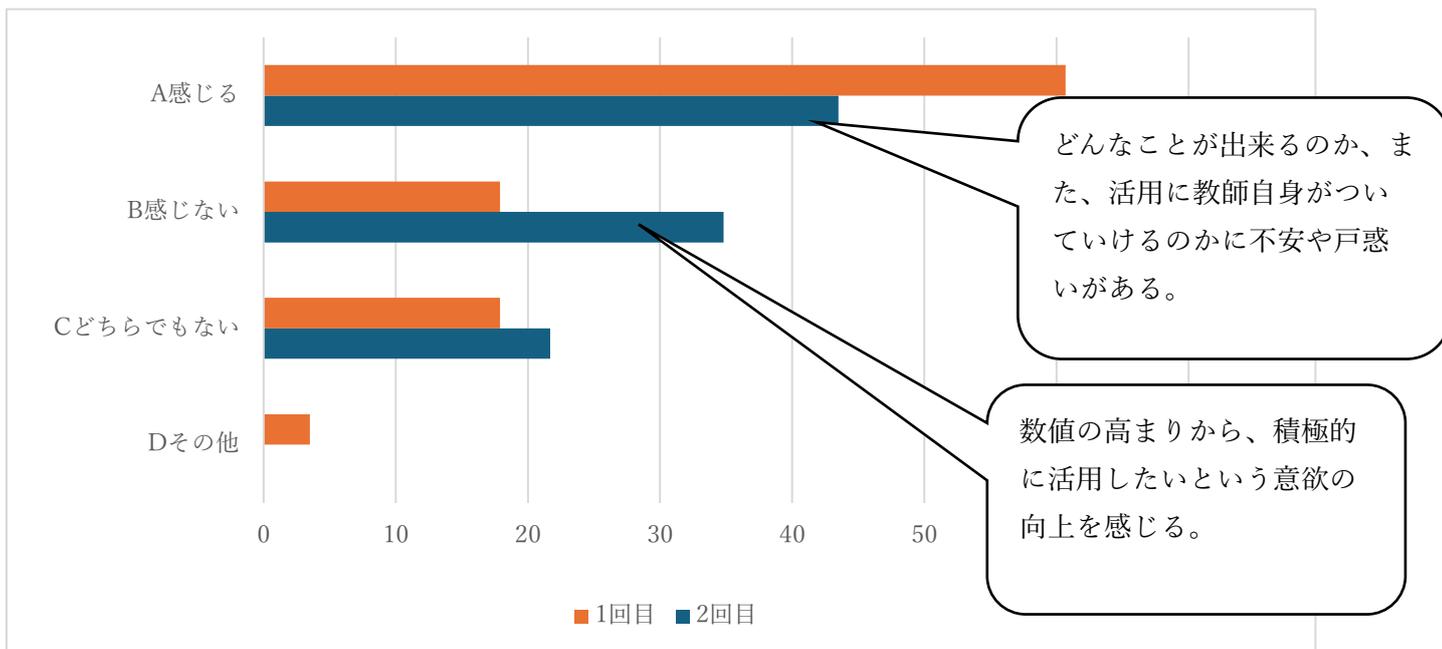
アンケート調査

- ・紙媒体で行っていたアンケートをGoogleフォームで行った。

評価・資料提示など

- ・生徒の活動の様子を記録し、評価に活用した。
- ・ミシンの使い方や製作の工程の提示
- ・畑作業、植物の成長を記録している。
- ・生徒がただ単に楽しいと思うだけでなく、身近な事柄と結び付けて考えさせたりするためのツールなどを探求したこと。
- ・ノート、プリント、タブレットを時間の関係で選択して使う。

質問2 ICT を授業で活用することについて不安を感じますか。

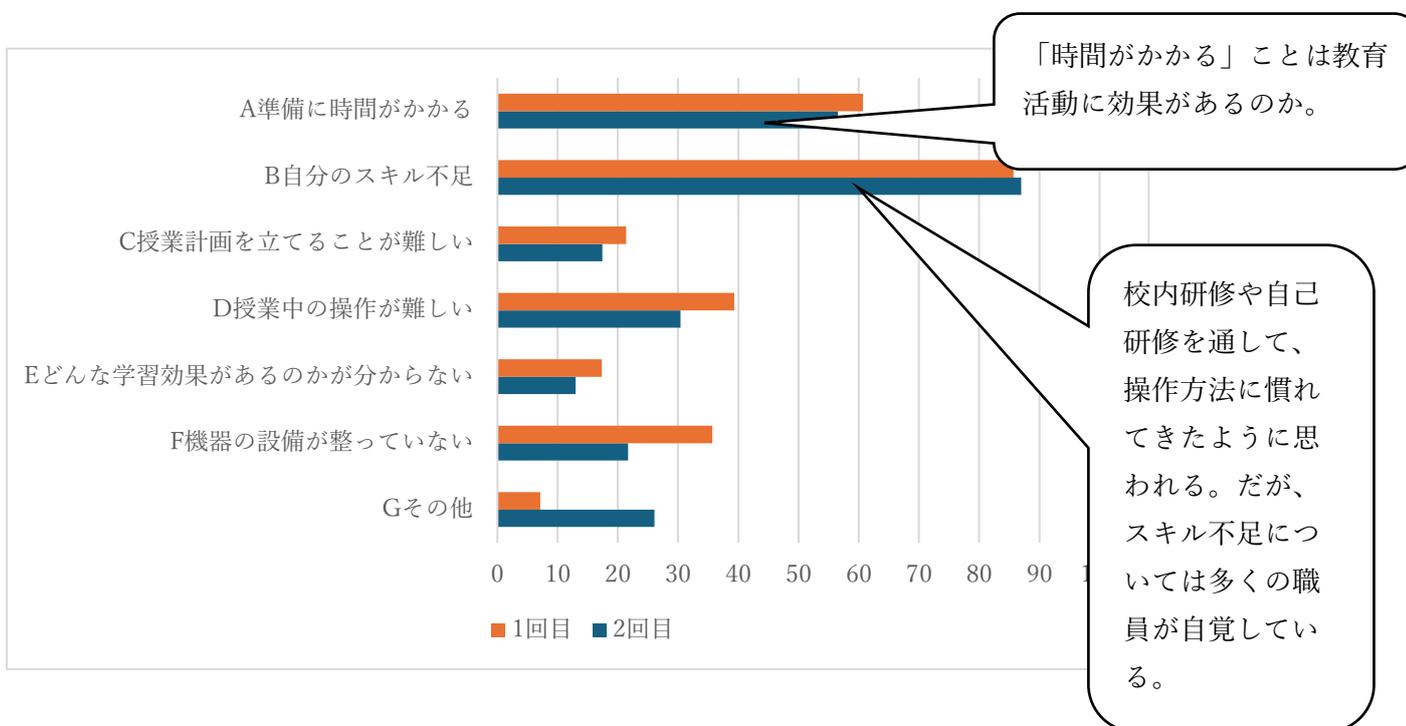


ICT 活用の不安を解消するために本校の取り組みとして、次のことが挙げられる。

- ・仕事の質や量に対する負担が高いため、教職員以外のスタッフの力を活かし、個々の質問に応じたり、校内研修などを行う。
- ・教員間で ICT を用いた授業参観を行い、支援や助言をもとに自分の授業に活かす。

生徒の ICT 活用への期待に合わせた教師のスキルアップが不可欠だと考えている。だが、使いはじめるまではハードルが高いため、ICT の使い方マニュアルや、各教科領域の単元に応じたマニュアル、具体例などがあれば、今後の課題にも対応できると考える。

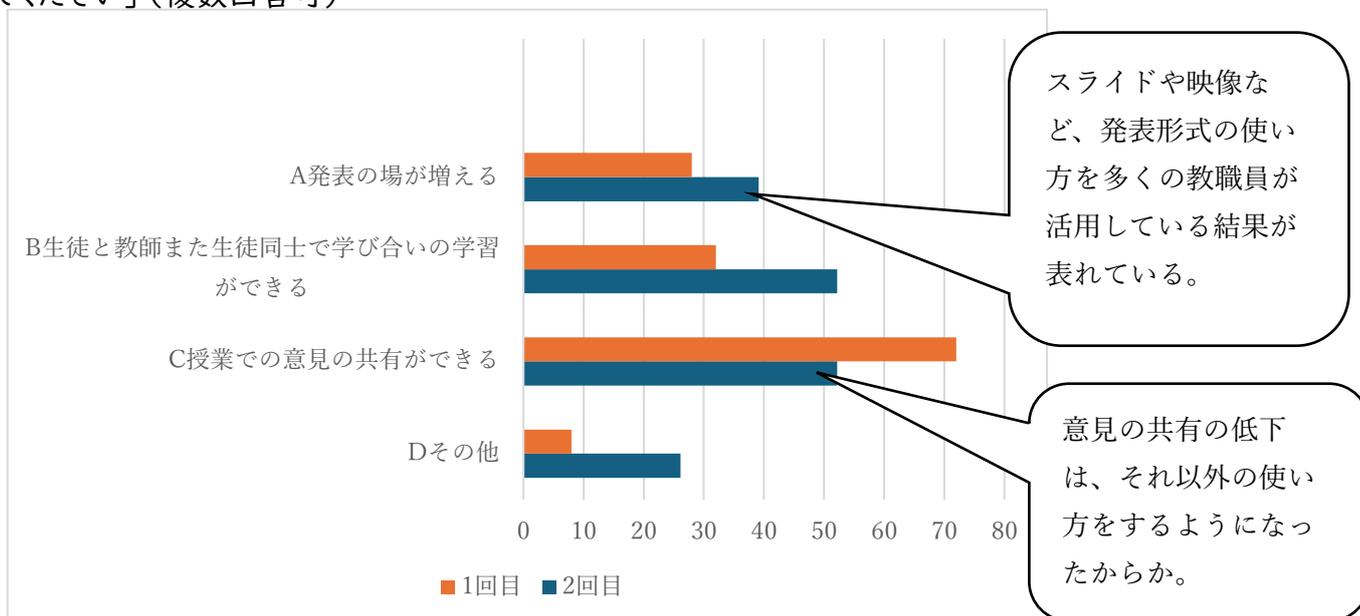
質問3 「ICT を授業などで活用することについて次のような課題を感じますか」(複数回答可)



「その他」(自由記載)より抜粋

- 通信が途切れたり、不具合で表示されないこと。
- 生徒自身に操作させる学習内容がごくわずかに限られている(生徒が授業の中で操作する場面がない)
- 実技の時間の確保と ICT 活用時間とのバランス。
- 評価場面での活用方法に課題を感じる。
- 生徒が撮影した動画をどのようにして集約し、評価や相互に共有するなど、使いこなせるレベルまでもっていく方法がわからない。
- ICT を活用する前提で授業を作った場合、機器を忘れた生徒などがいた場合、何もできなくなってしまう。逆に機器を忘れた生徒でも参加できるように設定した授業の場合、ICT 機器を活用するメリットが薄い授業設定になる。
- 教師が機器に注目すると生徒から視線を外す時間が増える。

質問4 「協働的な学びの視点から、授業などで ICT を活用してみて、効果があったと実感できることを教えてください」(複数回答可)



「その他」(自由記載)より抜粋

- ・口頭の指示だけでは理解が難しい生徒にとって、デジタル教科書の映像はわかりやすい。
- ・視覚的なアプローチで理解が深まる。
- ・理解を深めるための保続的な働きかけができる。

ICTは分かりやすい授業を実践するため1つのツールとして溶け込んできている。しかし、授業で意見の共有をする際「書く」活動が主体の教科も多いと思われる。だが、分かりやすい授業を目指し、ICTを用いてスライドで資料を作成するなど、プレゼン形式の授業を行う機会も多い。

4 まとめ

1回目2回目のアンケートによる実態調査は大きな変容は見られないが、校内研修を通して意識の向上につながったと思われる。本校には授業以外にICTを活用した次のような教育活動が行われている。

- ・校務処理(リーバー・打刻ちゃん・スズキ校務)
- ・食育アンケート(生徒向け)
- ・教育相談 心のアンケート(生徒向け)
- ・図書アンケート(生徒向け)
- ・図書のデジタル整備
- ・リモート校内集会(朝会・生徒会集会・式典)
- ・3校合同学校保健委員会(学校間におけるリモート集会)

調査結果から明らかになった結果を基に、今後の本校の取り組みとして上記の取り組みに加えて、次の内容について改善する意向である。

- ・教職員のICTに対する苦手意識を払拭するためにも、各教科領域に応じた使用方法の具体例をまとめる。
- ・スキルが少なくても誰もが使える、ICTのマニュアルを作る。
- ・ICTサポーターの活用状況を増やす。

「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」(文科省)では、

- 資質・能力の育成により効果的な場合にICTを活用する。
- 限られた学習時間を効率的に運用する観点からのICTを活用する。

とある。そのためにも、今後も意識調査を行い、教育活動の一層の発展につなげていく必要がある。